

『知事を囲んで 車座談議』

いろいろな市民の心を伝えました

県知事自らが地域に出掛け、直接県民の声を聞こうと開催されている「県政車座談議」。

なんとこの「こころ」が地方拠点都市地域の中核となる南国市民の率直な意見を聞こうと開かれたもので、一月二十七日、ホテル・ホリデー・イン高知には、いろいろな年齢層、職業の二十三人の市民が参加し、身近な話題から将来の夢などを知事とともに語り合いました。



南国市は交通の要衝で、発展の可能性の非常に高いところ。また地方拠点都市としてたくさんの方々が移住してきて、注目を集めている市です。今回で五回目の県政車座談議。市部では初めての試みですが、皆さんにはリラックスして率直なご意見を語っていただきたいと思っています。

19. 2. 27

農業を営んでいますが、後継ぎや花嫁不足で将来が不安です。これからの農業に希望が持てるよう県ももっと後押しをしていただきたい。

【知事】今でも農業には多くの補助がされています。大切なのは、まず住民が自分たちの地域をどのようにしていきたいのか考えて、行動を起こすことではないでしょうか。

例えば、農協などの役員はほとんどが男性。半数を女性にするくらいのことじゃないと、女性の意見は通らないでしょう。そうした努力を払わないで、農家にお嫁さんが来ないと苦悶しても仕方がないと思います。また、若い人が残らないのは、

残りにくいような古い体質があるからなのでは。若い農業を継ぐ人の意見が反映される環境が整っていますか。

組織の目上の人にものが言えないといったことを聞きます。そうした体質を変えていくことが大切なのではないでしょうか。

【知事】そうした努力を続けたいと思います。ただ、行政が支援してくれる、くれないでは地域からの理解度が大きく違います。行政任せではなく、住民が立派なアイデアを出したときは、法律の建前論で門前払いをせず、前向きに取り組んでいただきたい。

【知事】その通りだと思います。ガット交渉で米の関税化による自由化が差し迫っています。

高知県では、米作りだけで生計を立てている農家はわずかです。東北地方ほどの危機感はないように方々には、例えば、観光補給金をどうしていかないと補給の枠を越えて、お互い連絡を取り合いながら知恵を出し合っていたらいい。県としても、そうした場造りを考えていきたい。

地域版「こころ」の開催の様子



【知事】若者たちは南国市が変わることを望んでいます。以前、若者の未来の夢を託した提言書を市に提出しました。しかし、その夢をどう実現すればいいのか具体的な手法を持っていませんし、そうした若いエネルギーを集めるネットワークをどう作っていくかで苦闘しているところなんです。行政が主体にならず、それに乗っかっていくのではなく、そうしたエネルギーを自由に発揮できる場を作っていただきたい。

【知事】まちづくりなどで大切なのは、地域の若い人をどう取り入れていくシステムを作っているのかにかかっています。

そのうえで都市計画のプロフェッショナルやデザイナーのアイデアを取り入れながらやっていけば、個性のあるしかも愛着心の感じられるものが作られると思います。【知事】私たちの地域は山間地であり、今まで人口が流出し続けていました。「山の暮らしは苦しい」という



「地方拠点都市として……」
● 熱っぽい会話がはずむ。

と思いますが、高知県の今後の農業をどうお考えですか。また、南国市の農業をどうお考えですか。

【知事】関税化されたら、米作り農家は農業農家から変わってしまうから、施設園芸などの産地間競争は激化し、ほとんどの農家に影響を与えるでしょう。

実際、中山間地の米作りは困難になると思います。しかし、国土を保全しているという観点から、なんらかの所得保障を考えていきたい。このことは国にも要請していきたい。かなければなりませんし、県としても、先取り出来るものはしていきたいと思っています。

【知事】そのためには大規模な構造改革が必要となりますが、地元負担金がネックになって進展しないという問題があります。細切れの補助金を出すのではなく、こんなところにお金を使っていたらいい。また、農家の機械化費が言われています。価格の高い大型機械などは、地域間で計画的に収穫時をずらすなどして、リースや共同利用など有効利用できる施策を回っていたらいい。

【知事】個人的な意見ですが、地元負担金はゼロにするのがよいと思っています。ただし、何年かは転売しないなどの規制が必要ですが、確かに、細切れの補助金などは見直し、産業として成り立つ農業に切り替えるための基盤的な事業

には、公共投資していくことが必要ではないかと感じています。

農協の方には、金融や農家に機械を売り込むことにウエイトを置くいまのあり方から、営農指導など本来の業務を重視するほうが農家のためではないかと言っているのですが。

【知事】漁業を営んでいますが、いろいろな規制を強く感じています。もう少し風通しがよくならないものでしょうか。また、講習など受

けて、青年漁業士の認定をうけたのですが、それっきりで活かす機会が与えられていませんので、活かす方法を考えていただきたい。

【知事】わたし自身、認定状をお渡ししながら、これでいいのか疑問に思っていました（笑）。資格が生かされる支援方法を考えていきたいと思っています。

漁業の置かれている現状から、漁船単位の考え方をしている時代ではないと思います。将来を担う



自然と

調和した

発展を



発想を変え、山間地のよさを見直そうと地域の若いものが力を合わせ、海外とのスポーツ交流や手作りのコンサート開催などを行い、いまでは小学校に通う生徒も二十人になり、少しですが回復してきました。

地域でどれだけ活動を起こせる若者がいるかに地域起こしの成否がかかっていると思います。

知事 人口が、かりに減少していても、「過疎だ、過疎だ」と嘆かず、年齢構成が適正であればよいと思います。そんな地域社会を作っていたらいい。

地方拠点都市として

▼ 桜免町でも再開発の準備組合が発足します。一年間じっくり勉強し、新しい街を作っていきたい。また、吾岡山文化の森構想の中に第二県民文化ホールをぜひ建設し

ていただきたい。

知事 第二の県民文化ホールといった発想は小さすぎますね、他にはない初めてのものを、第一のものを作っていくのだというスケールの大きな発想で、新しいまちづくりをしていただきたい。

ホールも多目的でとよく聞きますが、多目的と目的がないのとは同義だと思えます。目的をしっかりと定めた方がよいと思えます。

▼ 高知県の学力の低さがいわれていますが、これは県民所得の低さとそれに伴う女性の就労のため子供への配慮が行き届かないからだと考えられます。

工科大学の設置と共に企業の誘致により県内に就職できる場を作っていたらいい。

知事 企業誘致には、工場以外にもオフィスの機能の業務施設の誘致には力を注ぎます。

また、一次産業にしても加工して付加価値を作るなどの工夫が必要でしょう。

人も自然もやさしいまちに

▼ 自然景観にしても、三面張りのコンクリートでは川が死んでしまっています。自然にやさしい開発を考えていただきたい。

また、水は市民にとって大切なもの、人口集中都市への分水など



都市への一極集中を後押しするような水の使い方ではなく、逆に水のある所に人が集まってくるような使い方をしたいと思っています。

知事 個人的には三面張り工法は見直し、自然に近いものに作り替えていきたいと思っています。

しかし、県下で起こした土木工事に関わる産業のウエイトが大きく、直ぐに切り換えると業界が混乱します。対応できる時間的な猶予が必要ですね。

企業誘致と開発は不可分な関係にあります。今のままの自然を大切にしたいという思いと企業誘致を望むことには、相反する部分が生じます。これはきちんと理解していただきたい。

▼ 食品添加物の影響が心配されるなか、安全な食品の普及を市民グループで取り組んでいます。安全教育などが必要ではないでしょうか。

知事 有機農法を実践している方々の考えはよく理解しています。しかし、農業で生計を維持している多くの農家にとっては、多数の消費者のニーズに比べては、多額の消費を要しません。そのための経済性をベースとしていかざるを得ないのはやむを得ないと思えます。

また、安全性を求めることは正しいと思えますので、県でも安全を保障するマークなり基準作りを考えていきたいと思っています。

▼ 同和問題では、まだ結婚差別などが残っていて、そのため地域には若い人が少なくなっています。すべての学校で同和学習に積極的に取り組んでいただき、同和問題の早期解決に努力していただきたい。

知事 記者時代には、同和問題について多くのことを学びました。現実には差別があることから目をそらすずに、解決に努力していくことが重要だと思えます。

その他、社会福祉では電動車椅子の支給に県下で地域差があることから、成人式のあり方や自転車道の危険性などについてまで、多くの意見が交わされました。